

みんなの童話

人形に助けられた命

もうすぐ春と云うのに、まだ寒い日のつづく、山間の小さな村のできごとでした。

「たかしくん、たかしくん」

村の人たちが一日じゅうさがしまわりましたが、見つかりませんでした。三年生のひろ子は、たかしくんのことを気にしながら、学校へ行きました。

帰り道も、（たかしくん、見つかったかなあ）と思いながら、県道から家の方へまがった時でした。

どこからか、子供の泣き声が聞こえてきたような、気がしました。（おや？）と思って耳をすまして、

聞くと、たしかに子供の泣き声です。（もしや、たかしくんでは）ひろ子は、声が聞こえる方をさがしました。

声は四枚田の方からでした。四



枚田は、同じ大きさの田んぼが、四枚角をそろえて、大きな田んぼに見えるのです。

四枚田は、ひろ子の家からも近くに見えるのです。昔は大きな野井戸があつて、その井戸から水をくみあげて、いねを作っていたのですが今は、木のふたをして、わらがつんであります。

（声は四枚田だ）ひろ子は四枚田へ向かつて走りまわりました。あぜ道はどろんこと、かれ草に足をとられてなかなか進めません。

はあはあ、いきをついて、やつと井戸につきました。

やつぱり、泣き声は井戸の中からでした。細い声が聞こえました。井戸のふたに、してあつた板がくさつていて、中がすこし見えま

した。ひろ子は、カバンを田んぼに、ほうりなげると、急いでふたの上の、かれ草や、くさつたわらをほらいのけました。

「四枚田の井戸には、ぜつたいに近づいちゃいかん」と子供たちは親から言われ、村人たちも近づきませんで

した。四枚田の井戸には、こわい伝説があつたのです。それをひろ子は、すっかり忘れていたのです。

それは、ひろ子の生まれる、ずっと前のことです。四枚田の井戸に落ちて死んだ人がいました。村人が引上げたとき、まだ若い人だったのに、頭には毛が一本もなかつたのです。

それからでした。夜になると毛がほしい、毛がほしい。と、死んだ人の声が呼ぶと、村人はおそれて、だれも近づかなくなり、そんな伝説がうまれたのです。

それだけではありません。今でも、井戸の土をそつと頭につけると、はげ頭に毛がはえると、言われますが、そんな事をする人は一人もいないと思

います。ひろ子は、たかしくんのこと、こわい話もわすれていました。井戸の上の枯れ草や、わらを引きづり落としました。

くさつて、ずれた板のすきまから、うすぐらい中が、少し見え、泣き声が聞こえました。

「だれ！、たかしくん？」（まちがいない、たかしくんだ）ひろ子は、声でわかりました。

「だいじょうぶ、まってるー大人の人を呼んでくるからあ」ひろ子は、ころがるように、あぜ道を走り、大人の人たちに知らせました。ひろ子の知らせで、村人たちが、かけつけました。

たかしくんが、いなくなつたと

き、ひよつとして四枚田は、と思つた人もいたが、大人も子供も行くとは思わず、たしかめませんでした。大人の人は、我先にと井戸へ入つて、たかしくんを助けました。たかしくんは、無事助かりました。助けられた、たかしくんのうでは、しっかりと市松人形がかえられていました。

村も静かな村にもどりました。ひろ子もまた、いつもの道を通つて学校へ行きました。たかしくんは、市松人形を持つてあそびます。ある日、たかしくんが「井戸の中には毛がいっぱいあつて、あつたかかつたよ」と話してくれました。

ひろ子は毛の話は、もういやだと思つている時、たかしくんが、人形の毛がびたので切つてくれと持つてきました。前がみが本當にのびていました。たかしくんの市松人形はお嫁に行つた、お姉さんにもらつたそうです。

たかしくんの事件のあと、ひろ子は勇氣ある子と村人から、ほめられました。

井戸は、しっかりと土を入れてうめました。そしてその上に一本の柱が立てられました。

何が書いてあるか、ひろ子には読めません。

しろやま会員 中川 かなめ